

人がいきいき町がキラキラ鶴田の創造

～町民が主役のまちづくりを目指して～

分水嶺に立つ年

鶴田町長 井上 章三



町民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

新たな願いや抱負を胸に、ご家族お揃いで健やかに新年をお迎えのことと存じます。旧年中は町政各般に対しましてご厚情を賜り誠に有難うございました。

特に昨年は町制施行以来の40年を偲びながら数々の記念行事を開催いたしました。それぞれの行事が盛會裡のうちに無事終了できました。町民の皆様方のご協力に對し深く感謝申し上げます。

本町では第4次総合振興計画にもとづき、「人がいきいき・まちがキラキラ鶴田の創造」の着実な進展を目指して取り組んでおります。昨年3月には町内12個所に設

置した公衆端末でインターネットを通じて自由に情報を得ることができる地域イントラネットが整備され、農作物・観光・行政情報等の提供を行い、町内外の方々に利用されているところであります。

今年2月13日には広域農道で本町唯一となる天狗山トンネル（長さ235メートル）と川内川に架かるホテル大橋（長さ107・6メートル）が完成し、今年の幕開けにふさわしい開通式が行われることになっております。また、紫尾温泉の駐車場整備についても3月完成の予定で、大型バス駐車を含め周辺環境はより快適になると期待しています。さらに、町民の永年の懸案であった湯田原地区分譲地建設の工事も昨年12月には入札も終え、3月には完成の予定で

す。今日わが国は、21世紀の国内外の情勢に対応できる国家としての組織・体制をはじめ諸制度の改革に取り組んでおりますが、長引く日本経済の低迷と、イラクの復興

支援や貿易協議など国際的な要請の中で厳しい運営を迫られております。

本町でも地方分権時代に対応する新たな町づくりのために、薩摩東部地区合併協議会が設立され、平成17年1月11日を目標に現在9回目の協議に至っております。新町名称も「さつま町」と決定いたしました。一方で一部事務組合の問題や農家・商工関係からも5町合併を願う動きが加速しており、本年はまさに合併の正念場、分水嶺に立つ年となると思われます。当地域の将来に大きな影響をもたらす問題だけに、歴史的、文化的背景や住民生活の態様、さらに住民の皆様の意向等に配慮しながら、将来を展望した望ましいまちづくりのため、最大限の努力をしたいと思っております。

年頭にあたり、町政に対する倍旧のご支援とご協力をお願いし、併せて本年が皆様にとって最良の年となりますよう祈念申し上げ、挨拶いたします。

新時代へ踏み出す年

鶴田町議会議員長

東 哲雄



町民の皆さん新年明けましておめでとうございます。今年一年がよい年であってほしいとの願いと期待を抱き、新年をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年は、町制施行40周年の式典が盛大に開催されるなど、本町にとって節目の年となりました。先人の功績とあゆみをふり振り返り感慨深く、また、懐かしく思い出した年でした。これまでの偉業や体験を継承していくことを強く実感した年です。

国政においては、11月9日衆議院選挙が実施され小泉内閣が再選

されました。今回の選挙で政局は二大政党制へと変動しましたが、引き続き小泉内閣の構造改革路線は進められることとなります。内外ともに問題も山積する中、経済の活性化を含め日本再生の時、一日も早く実現することが国民共通の願いであります。

また、国際社会においても大きく変動をしつつあります。今回、イラク復興に日本の自衛隊が派遣されることとなります。日本の今後の国際協調の役割も大きな転機を迎え、まさに時代が変わろうとしています。

国内の農政においても新たな米政策が示され、これまでの転作面積から生産目標数量及び作付け目標面積への移行が、今年からスタートし、平成22年までの改革が進められます。今後は、市場の需要を把握し集荷、流通、売れる米作

りが求められることは必至であります。合わせてこうした変革の時代、農業の振興にどう取り組んでいくかが急務といえます。

そのような中、平成の合併に向け、新たな町づくりの協議が進められています。これまでの協議により新町名称、新事務所の位置など協議済みとなっておりますが、合併までにはまだ調整すべきことも残っています。地域の将来の発展に向け、一歩を踏み出すための基盤となる年にしたいと願っています。議会としても更に努力を傾注して参ります。最後に町民のご健勝とご活躍を祈念申し上げ新年のあいさついたします。